

佐賀女子短期大学付属ひしのみこども園

ひしのみだより

令和8年1月8日

文責 園長 和泉 秀浩



あけましておめでとうございます

2026年がスタートしました。今年も、ひしのみこども園に関わる皆様のご健康とご多幸をお祈りしております。

園庭では、すでに子どもたちの元気な声が響いています。子どもたちの笑顔を見るだけでも幸せな気分になります。

始業式では、お正月に楽しく過ごした様子を元気に教えてくれました。そして、今年は「午年」です。馬のように元気いっぱいに、馬のように優しさいっぱいに過ごして、大きく成長するように話しました。

今年は、2月には、ミラノ・コルティナ冬季オリンピック、3月には、野球のWBC、6月には、サッカーのワールドカップが開催されます。選手の活躍による感動と選手の感謝の思いを、子どもたちとも共有できたらと思います。子どもたちにはわかりにくいと思わずに、大人が喜んだり、すごいと褒めたりする姿を見せていきたいと思います。

さて、3学期は年度のまとめをする学期、進学・進級の準備をする学期です。元気に楽しく、遊びに夢中になって欲しいと思います。

どうぞ今年も、ひしのみこども園の教育・保育へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



「大切だよ」を伝えること

前回、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」についてお知らせしました。これは、将来に向かって、よりよく学びよりよく生きるための基盤となります。いろいろと研修を受けていく中で、それ以前に子どもに備わっていないといけないものがありました。それは、「大切にされている」という感覚です。では、どうやって伝えればよいのか。優しく見つめる笑顔、優しい声、抱きしめる時の手の温もりなど、様々な愛情を駆使して伝えなければなりません。時には服のボタンを優しい顔でしめてあげるなどもよいと思います。

子どもたちは、その存在が私たちを幸せにしてくれます。お子様が初めて寝返りをした時や歩いた時などに、見つめてくれたことや笑顔で褒めてくれたことなど、乳児期の「大切にされた」という感覚を覚えています。それがいつの日かできたことが当たり前となってしまう、褒められることもなくなり、子どもたちは「あれ？おかしいぞ」となってしまいます。「大切だよ」と伝えることは、小学校の低学年までは必要なようです。

「大切だよ」と伝えることと甘やかすことは、違います。ひしのみこども園でも、「大切だよ」、「大切な存在なんだよ」と子どもたちに伝える教育・保育を行っていきます。

桜の木ありがとう

園庭には、春にきれいな花を咲かせる大きな桜の木があります。桜を眺めて穏やかな気持ちになったり、散った花びらを集めて楽しんだりしてきました。子どもたちに春を知らせ春を楽しむ存在として親しまれていました。

しかし、幹の空洞化が進み、子どもたちに危険が生じる恐れがあり、伐採することとしました。長年愛されて、残念な思いもあります。今いる園児のみんなには、「ここに桜の木があったね」と思い出すことで、感謝の思いを継承したいと思います。

